

令和5年度

不登校対策に係る
取組事例
県立学校版

不登校対策に係る取組事例

岩手県立平舘高等学校
岩手県立水沢商業高等学校



取組事例から学ぶ

不登校対策に係る取組のポイント

- ★ 学校が安全・安心な居場所となる「魅力ある学校づくり」を進めること
- 1 個に応じた「分かりやすい」学習指導の充実を図ること
- 2 児童生徒のSOSを受け止める教職員の力の向上を図ること
- 3 学級担任や教育相談コーディネーター、養護教諭、SC、SSW等とが連携し、多角的・多面的な児童生徒理解を可能とする教育相談体制を築くこと
- 4 校内教育支援センター等で、安心して過ごせるようにすること
- 5 オンラインやICTを適切に活用し、教育機会の提供や客観的な児童生徒の状況把握を進めること
- 6 校種を越えての情報連携を丁寧に進めること



岩手県教育委員会

岩手県立平舘高等学校

1 学年グループワーク研修

概要

1 本校の試み

他者と協働しながら活躍できる行動力を身に付けるためには、生徒が良好な人間関係を構築していく力を身に付ける必要がある。学校不適應、不登校対策のため、本校では新入生の緊張感や不安感を軽減し良好な人間関係を作るきっかけとするために、8年前から新入生対象にグループワーク研修を実施している。生徒主体で取り組む活動を準備し、その中で生徒同士だけでなく職員との交流を深めることを目指しているとともに、新入生一人ひとりを理解する良い機会となっている。

2 取組事例

新入生に実施する前に、立命館大学の太谷哲弘氏を講師として招き職員（保健厚生課、1学年団）対象の研修会を実施し、プログラムを効果的に実施するための知識と技術の習熟を図っている。実施日は新入生オリエンテーション、対面式の次の日、授業が開始する前日である。朝から運動着に着替え、リラックスした雰囲気を作った状態でスタートする。「明日の朝挨拶できる友達をつくろう」という目的のもと、途中、活動するグループを変更しながらワークショップに取り組む。

3 プログラム内容

- (1) 緊張をほぐすワーク 足じゃんけん、全身じゃんけん、牛男と馬子
- (2) 関係をつくるワーク サイコロトーク、今年の漢字
- (3) 関係をつなぐワーク 新聞紙タワー、〇〇と言えば
- (4) 伝え合うワーク いいとこ四面鏡



まずはウォーミングアップ



1学年全員で輪になって



先生も一緒に活動します



明日の登校も楽しみ

4 取組を通して

最初は緊張した表情の新入生たちが、プログラムが進行するにつれ表情が明るくなり、自分のことを相手に伝えたり相手の話を聞いたりする活動に楽しんで取り組む様子が毎年見られている。

実施後のアンケートにも、「自分の話をたくさん聞いてもらえて良かった。」「話すのが初めてでも一緒に協力して活動できてよかった。」「自分がどのように見られているかわかってよかった。」「もっといろんな友達と活動したいと思った。」など今後の学校生活や友達関係作りに対して前向きな意見が多く、翌日からの授業開始も良い雰囲気で行われている。

本プログラムを実施することで、入学当初の学校不適應や人間関係が理由の欠席は少ない。しかし、年度の後半に差し掛かるにつれ、数名であるが欠席が増える状況が毎年見られるので、入学当初だけでなく年度途中での取組の必要性についても検討しながら継続していきたい。

成果

- ・新入生が主体的に人間関係を構築する力をワークショップで身に付けることで、入学当初の緊張や不安を取り除き、適切な友達関係や対人距離を学習することに一定の効果を上げている。

課題

- ・このような活動の継続が不登校の未然防止につながることを期待できるので、今後は生徒自身が主体となって実施していけるよう話合いの場面を持たせるなどの工夫を検討する必要がある。

岩手県立水沢商業高等学校

Teams を活用した生徒の健康観察

概要

1 本校の試み

本校では、コロナ禍において、Teams と Forms による生徒の健康観察を実施してきた。第5類に移行したものの、管内は感染者数の割合が高かったこと等から、引き続き健康観察を実施してきたが、保健室利用者がなかなか減らない状況や教育相談の必要な生徒が多い現状を踏まえ、これまでの健康観察をより効果的に活用できるのではないかと考え、厚生部及び教育相談部が連携を図り、「**本日の元気度**」を新たな項目として盛り込み、令和5年11月から運用を開始している。

2 健康観察の目的

- (1) 子どもの心身の健康問題の早期発見・早期対応を図る。**(不登校の未然防止)**
- (2) 日々の継続的な実施によって、子どもの自他の健康に興味・関心をもたせ、自己管理能力の育成を図る。(文部科学省：教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応より)

3 対象

全校生徒

4 方法

生徒が Forms に入力した結果を「ワークシート」というアプリを介して学校側が確認する。

- (1) 健康観察入力シートは Teams を介して生徒に朝6時に自動投稿される。
- (2) 生徒は Forms により健康状態を7時20分までに入力する。
- (3) 担任・副担任の作業

ア Teams 朝会連絡「R5 健康観察」のチャンネルを開き入力内容を確認する。
イ SHRで観察(表情・声・顔色など)を行い、有所見者に対し適宜状態の確認をする。

ウ 未入力者がいれば入力を促す。

※Forms による入力ができない生徒は「健康観察カード」を使用する。

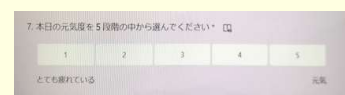


5 Forms による健康観察の項目

- ア 咳・のどの痛みの有無、イ 頭痛の有無、ウ 腹痛の有無、エ 睡眠不足の有無
オ **本日の元気度 (5段階評価)** ※10月30日以降(「疲労度の有無」から変更)
カ 朝の体温(任意) ※いつもと体調が違うなど、検温をした場合に入力

6 事後措置

- (1) 担任・副担任は、所見のある生徒がいる場合、状態を確認し学校生活の送り方等について本人と確認する。判断に迷う場合は、保健室で再度健康観察を行う。
- (2) 厚生部は、学年・全校の傾向を把握し、状況に応じて感染症等の蔓延防止策を検討する。
- (3) **教育相談部・養護教諭は、「本日の元気度」の質問に対し、「1(とても疲れている)」を3日間連続してチェックを入れた生徒に対し、体調の確認を行う。多数の場合は学年団に協力を求める。**
- (4) 健康観察データは、生徒理解、健康相談、保健指導の資料として活用する。



成果

- Teams 健康チェックの元気度の回答において、元気度1の入力件数135件のうち相談を実施した6件は精神的な面の不調も抱えるケースであった。(不登校の未然防止にも有効)
- Teams の健康観察元気度1の入力はハイリスクな状況を早期にキャッチし、円滑な初期対応につながられた。

課題

- 生徒の入力の習慣化が課題であり、特に1年生の回答率が低いことから、引き続きホームルームや一斉メール等で周知徹底を図っていく必要がある。